



ロンドン大学ゴールドスミス校の心理学部

情) 特性を持つ子どもたちの支援、共感性の発達をご専門の Alice Jones 先生と、私たちの近年のデータに基づいて、熱い議論を交わすことができました。ロンドン是他大学へのアクセスも抜群に良く、King's College London (キングスカレッジ) の Francesca Happé 先生、Geoff Bird 先生、Birkbeck, University of London (ロンドン大学パークベック校) の千住淳先生ともお会いして、面談の時間をとっていただき、非常に刺激的で有意義な時間を過ごすことができました。

ロンドン大学ゴールドスミス校では、教員間のチームワークが良く、ターゲットとなる研究テーマのために、各自の強みを生かして連携して研究費を獲得し、共同研究を行うことが多いということでした。たとえば、乳児の脳計測を Bremner 先生、発達性協調運動障害を持つ方の行動実験を Hill 先生が担当して、乳児からの運動機能の定型・非定型発達に関する大規模なプロジェクト研究を行い、それぞれの大学院生、研

究員がプロジェクトに参画して、共同研究を遂行し、研究指導を受けていました。こうしたシステムは、研究の生産性が高いだけでなく、大学院生に対する教育を効率的にしていると思います。

ロンドンは、研究以外でも魅力的な場所が多く、科学博物館や自然史博物館にはとても興味深い展示が多くありました。たとえば、脳神経科学研究や心理学的な研究をわかりやすく、かつ現在明らかになっていることを正確に紹介されているコーナーがあり、子どもの頃から最先端の科学に触れられるのは、未来の科学者を育成することにつながると思いました。基礎研究の成果を社会に還元するアウトリーチ活動が自然に行われており、参考になる点が多いと思えました。

今回の渡英をきっかけに、ロンドン大学ゴールドスミス校の先生方と共同研究を始められることになりました。今回の渡英を可能にくださった Bremner 先生、Bremner 先生と知り合う機会を賜りました日本発達心理学会を支えてくださっている先生方とスタッフの皆様、英国心理学会発達部門を支えてくださっている方々にこの場を借りてお礼を申し上げます。素晴らしい機会を与えてくださいました、日本発達心理学会、英国心理学会発達部門の益々のご発展をお祈りしております。

米田 英嗣さんのプロフィール

京都大学白眉センターに所属し、研究や教育活動を行っています。特に、自閉スペクトラム症を持つ児童や成人の心理・神経メカニズムについての基礎研究、基礎研究の成果を発達支援に役立てることをめざした応用研究に関心があります。現在、日本発達心理学会国際研究交流委員として活動しています。

学会・研究室紹介

認知・発達フォーラム

杉村 伸一郎 (広島大学大学院教育学研究科) shinsugi@hiroshima-u.ac.jp

認知・発達フォーラムは、「認知」や「発達」に関する「自分の研究」を発表し、多くの人と討論をしたり情報を交換したりする場です。参加することにより、多くの刺激を受け、新しい研究が生まれたり、研究仲間ができたりします。そして、二日酔いになる人もいますが、ほとんどの人が元気になって帰ります。

その歩み

認知・発達フォーラムの前身は、児童・学習フォーラムで、祐宗省三先生 (広島大学)、北尾倫彦先生 (大阪教育大学)、杉村健先生 (奈良教育大学) の3名が発起人となり、3つの大学を順次会場にして開催していました。第1回は1976年ですが、実質的にはその数年前から行われていて、上記の大学以外の人

も参加しやすいように、児童・学習フォーラムとして開催するようになったそうです。

当時の研究内容に関心がある方は、『児童学習心理学』（北尾倫彦・杉村健編，1978，有斐閣）や『観察学習の発達心理』（祐宗省三編，1984，新曜社）などを図書館でお読みください。前者は、記憶や学習様式の発達、後者は、観察学習などの社会的学習に関する実験が中心です。2冊とも、「自分の研究」が、目的、方法、結果と考察という論文のスタイルで紹介されており、実験的研究を志す人の参考になります。

さて、時が流れ、21世紀になる直前の1999年に、20年以上続いた会の名前が、認知・発達フォーラムになりました。その間に、児童心理学から発達心理学へ、学習心理学から認知心理学へ、という動きがあったので、先に述べたような特定の領域に限定するのではなく、幅広く多くの研究者が集える会にするための改名でした。そして、現在、当番になる大学は昔と同じですが、世話人は、奈良教育大学が豊田弘司先生、大阪教育大学が高橋登先生、そして広島大学が私に受け継がれ、今年で第17回を迎えます。

参加者の感想

年寄りの歴史の話はこれくらいにして、若い人から見た会の様子などをお伝えしましょう。以下は、浦上萌さん(広島大学大学院教育学研究科D3)の感想です。

参加 他大学の院生にとどまらず、先生方の発表も聞くことができ、その分野の第一線で活躍する研究者の最新の情報を聞くことができる貴重な場です。また、認知・発達フォーラムという名の通り、基礎的な認知研究から、現場に近い実践研究を発達の視点で検討している研究まで、発表分野も幅広く、学会等で自分の分野の発表を聞きに行くだけでは触れることのない研究の視点を知ることができます。そして、学生にとっては、同じ分野や近い年齢で研究に励んでいる大学院生とも関わることができ、良い刺激になります。

発表 心理学の場合、個人の発表は、学会等ではポスター発表が多いですが、フォーラムでは口頭でのプレゼンであるため、自分の研究を、限られた時間の中で、より論理的に流れに沿って説明していかなければならないという難しさがあります。そして、私自身は、これまでに3回発表させていただいていますが、質疑応答の時間は未だにドキドキが止まりません。自分なりに、こういうことを聞かれるかな？とか、ここ

は質問が出れば補足しないといけないと事前に考えているのですが、これまで自分が約半年かけて考えたことをわずか数十分の発表を聞いて、質問されたり、もしくはその予想をはるかに超える、しかもストレートに研究の核心をついた質問が立て続けに質問されたりするのもフォーラムの特徴だと思います。院生の私にとっては、今年はどんな球が飛んでくるのかとドキドキしながら発表にのぞみますが、第一線で活躍されている研究者の方々に自分の研究を見てもらえることで、研究の励みになります。

懇親会 懇親会では、研究の話はもちろんのことですが、人生の話の方がメインになることが多いです。これまでの研究人生で、こんなつらいことがあったとか、先生方が院生だった頃はこんな生活をしていたなど、先生方のこれまでの豊富な人生経験が聞けたり、アドバイスももらえたりすることも多いです。研究発表の時は、厳しくストレートにピシバシ指摘していた先生も、懇親会ではその土地の美味しい食事を味わい、楽しくお酒を飲みながら、和気あいあいとお話できる場であると感じています。

参加を希望される方へ

知的な刺激が欲しい人、厳しいが愛のあるコメントが欲しい人、研究者としてのアイデンティティを確立させたい人、研究意欲が低下している人、ぜひご参加ください。発表の部だけでなく懇親会もセットにさせていただいた方が、効果があります。開催場所は3つの大学に限定されていますが、参加は、「認知」や「発達」に関心のある人すべてに開かれています。

今年は、広島大学で、8月1日（土）の午後から2日（日）の午前にかけて開催する予定です。詳しくは下記のHPをご覧ください。では、フォーラムで多くの人に出会えることを楽しみにしています。

HP：<http://home.hiroshima-u.ac.jp/shinsugi/forum.html>

杉村伸一郎さんのプロフィール

若い頃は二日酔い組の一人でした。そのため何回か午前の発表をさぼりました。それを見ていた研究の神様が、さぼれないように、世話人の一人にしてくれたのだと思っています。長年、空間と数を中心に幼児期の認知発達を研究しています。最近、遊びにおける子どものリスクマネジメントの研究も始めました。